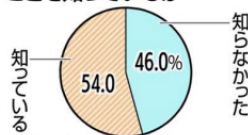


# 避難勧告廃止 半数が知らず

## 県立広島大調査

「避難勧告」が廃止されて「避難指示」に一本化されたことを知っているか



※県立広島大の6月調査結果から

2018年7月の西日本豪雨で各地で大きな被害が出た広島県内の住民を対象に県立広島大（広島市南区）が意識調査をしたところ、災害時の避難勧告が廃止されたことを知らない人が約半数に上った。既に大雨のリスクが高まる梅雨シーズンとなっており、自治体や国が避難情報の変更をどう周知していくのかが問われた形となっている。（服部良祐）

## 自治体の情報発信不足

### 西日本豪雨 3年

大雨時の防災情報は5月20日、市町村が出してきた「避難勧告」が廃止され、「避難指示」に一本化された。違いが分かりにくいなどの指摘を踏まえ、国が災害対策基本法を改正した。調査は、その後の6月18、20日、同大が東京のリサーチ会社の協力でインターネットで実施した。

同県内の男女20〜79歳に、災害時に避難所に行くかなどの防災意識について尋ね、4970人から回答を得た。避難勧告が廃止されて避難指示に一本化されたことを知っているか聞いたところ、46・0%が「知らなかった」と答えた。避難勧告と避難指示は、

共に大雨時の警戒レベル4で出されていた。避難指示がより差し迫った状況で出される避難情報だったが、違いが分かりにくく、逃げ遅れにつながるなどの懸念の声が出ていた。

調査を担当した同大大学

院の江戸克栄教授（防災マーカーケイ）は、「変更があつてまだ1カ月だが、国や自治体の情報発信が足りていない。学校の防災教育などで周知を徹底することが必要となる」と指摘している。